

[中間評価]

課題名 早期母子分離・人工哺乳による黒毛和種子牛生産性向上技術の確立（令和元年度～5年度）

【課題の概要】

現在、繁殖経営は戸数・飼養頭数ともに減少しており、子牛の効率的な増頭が求められている。早期離乳は、母牛の発情回帰の早期化による分娩期間の短縮が見込まれることから、子牛の増頭に繋がる有効な技術であるが、本県においては、早期母子分離を用いた飼養管理は一部の繁殖経営での活用にとどまっている。

そこで、本試験では早期母子分離・人工哺乳で課題となる、子牛の発育および第一胃性状への影響、母牛・子牛の咆哮回数への影響、母牛の繁殖性への影響等について検証し、早期母子分離および期間短縮による子牛生産技術の体系化（マニュアル化）を図る。

【評価結果】（評価委員数 4名）

○各項目の評価（各評価委員の平均点）

貢献の可能性	進捗度・達成度	成果の整合性	合計点
4.5	4.5	4.5	13.5

○総合評価 A：継続

（A：継続 B：計画を見直し継続 C：中止）

【委員の意見・助言と対応策】

評価項目	意見・助言	
貢献の可能性	早期母子分離が母牛の発情回帰の早期化に有効であることが示されており応用が期待される。	
進捗度・達成度	再現性を確認する上でも検体数を増加させることは不可欠である。	
成果の整合性	早期母子分離は農家の管理負担の増加につながる可能性があり、現場での実証試験が重要である。	
総合評価	意見・助言	対応策
	順調に進捗し、期待通りの成果が得られている。今後例数を重ねて成果の精度を高め、現場で使いやすい技術に仕上げてもらいたい。	供試頭数・検体数を追加し、影響調査における確度向上を図る（R4年度9頭追加）。 また、畜産農家での現地実証により、更なる課題の掘り起こし、改善策を検討するとともに畜産農家への聞き取り等を行い、畜産農家が取り組みやすいマニュアルの作成、提案、伴走支援を実施する。